

# 南アルプスからの恵みを知り、守り、伝えていく

Interview



増澤先生は静岡大学理学部特任教授で今回の南アルプスユネスコエコパークの登録にも検討委員会の委員長として大変ご尽力いただきました。

先生に登録後、エコパークをどう捉え暮らしていけばいいのか伺いました。

南アルプスユネスコエコパーク登録検討委員会

## 増澤武弘 委員長

**ユネスコエコパークを簡単に教えてください。**

世界遺産が手つかずの自然を法律で厳格に守るのに対し、ユネスコエコパークは、生態系の保存および持続可能な自然と人間社会の共生を目的とする取り組みです。

この自然の恵みを受けた生態系を保存することと経済や社会活動の持続的な発展を目指すという、「両立」に取り組むことがエコパークの大切な要素です。

**ユネスコエコパークの理念を教えてください。**

人と自然が共存して暮らすこと。そして、自然からの恵みを「知り、守り、伝えていく」こと。これをサイクルとして取り組んでいくことが大切です。

私たちは大井川の水やそこから育まれる動植物などの生態系から得られる恵みによって暮らすことができています。これは「生態系サービス」とい

う考え方でエコパークも同様に考えます。

**今回の登録は、南アルプスを取り囲む3県10市町村の連携もキーワードですね。**

南アルプスエコパークのキャッチフレーズは「高い山、深い谷が育む生物と文化の多様性」です。これは、南アルプスエコパークの特徴でもあり、3県10市町村が優れた自然環境の保全と持続可能な利活用を連携して目指していくこととなります。一つの市町村だけが取り組むのではなく、みんなで価値を認識して「日本の宝」を協力して守っていくことが大切です。

そのためにはエコパークの理念を基に、各市町村で特徴ある取り組みを継続的に行っていくことが求められます。

**私たちはエコパーク登録をどのように捉え、暮らしていけばいいのでしょうか。**

3県10市町村の中でも

川根本町は全域がユネスコエコパークに登録されているため、守るべき体制が確立しやすいという点で特徴的です。登録されることにより、町民が協力して「自分たちの宝をみんなで守る」という共通の理解は得られやすいものと考えます。

また、大井川を例に静岡市との連携を考えるのと、南アルプス間ノ岳を源流とする大井川が静岡市から川根本町を通り抜けています。この南アルプスからの恵みの水を静岡市と連携して守っていく必然性も理解しやすいと思います。

これらの南アルプスの恵みを当たり前と捉えず、特産物についても南アルプスの恵みから生み出されると考えてください。川根茶を例に説明します。このお茶は川根本町の山間地特有の霧深い水分条件と昼夜の温度差により生み出される深い味わいが特徴です。これも南アルプスの恩恵を受

## 川根本町全域が登録されました

ユネスコエコパークとは？  
説明会開催のお知らせ

①講師 若松伸彦先生

(東京農業大学研究員)

②開催日時

▶平成 26 年 7 月 4 日(金曜日)

時間	会場
午前10時～	役場本庁舎 3階
午後1時30分～	役場総合支所 2階

③申し込み先

参加を希望される方は、役場商工観光課へ、事前にお申し込みください。

【問】商工観光課 ☎(58)7077

川根本町の市街地から雄大で気高い南アルプスは見えませんが、いつも南アルプス間ノ岳を源流とする大井川や南アルプスの生態系か

私たちに豊かな恵みをもたらしてくれている「南アルプス」に感謝し、その自然や文化をいつまでも守り続けていきたいと思います。

最後に川根本町民に向け、先生からメッセージをお願いします。

活動などしっかりとした基礎はできています。

けたお茶と捉えれば、南アルプスエコパークの地で生み出されたお茶であると世界的ブランドにつながります。これらのことが自然を大切にし、共に生きるという気持ち、「誇り」につながっていきま

ら恵みを受けています。そのことをまず再認識してください。そしてこの自然からの恵みをいかに多くの人に伝えたり、エコパークブランドに変えていくように、行動することが鍵です。幸い、川根本町にはエコパークの理念と合致するエコツーリズムの活動などしっかりとした基礎はできています。

## Message

## 世界が認めた日本の宝

南アルプスユネスコエコパーク  
登録決定静岡市長  
田辺信宏

南アルプスに深く関係する10市町村で取り組んできましたユネスコエコパークの登録が決まり、私たちの故郷にまたひとつ宝が増えましたことを大変うれしく思います。

登録地域となりました川根本町と静岡市井川地区は、南アルプスに抱かれた豊かな自然環境の中で、古くから大井川の急流を活かした木材運搬や川霧に包まれた良質な茶葉の生産など、先人たちの知恵や技術によって培われた共生文化や歴史が色濃く残っています。

ユネスコエコパークは、こうした故郷の自然や文化を大切に守りながら、その恩恵を絶やすことなく暮らしの中で活用

し、人も地域も末永く発展していこうとする取組です。

ユネスコエコパークの登録は、川根本町と井川地区、そして、共に登録地域となりました山梨・長野の8市町村を繋ぐ心の懸け橋となりました。これまで南アルプスの山々によって阻まれてきた10市町村の交流は、ユネスコエコパークによって「山々で繋がる心と心の交流」へと変わっていかねばなりません。

互いに「世界に認められた共生文化が息づくまち」であることへの誇りを持って、奥大井の素晴らしい自然環境と多様な文化を融合させながら、豊かな地域づくりを進めていきたいと思います。

## Message

## 世界が認めた日本の宝

南アルプスユネスコエコパーク  
登録決定川根本町長  
鈴木敏夫

このたび、川根本町全域を含む3県10市町村に及ぶ南アルプスエリアのユネスコエコパークへの登録が決定されたことは、本町としても、非常に喜ばしく、感謝の念に堪えません。

また、これまで、努力を重ねてきた9市町村の皆さまに深く感謝するとともに、ご支援を賜りました文部科学省、環境省、林野庁、静岡県等の関係諸団体の皆さまをはじめとする多くの関係者の皆さまに心から感謝申し上げます。

本町が掲げる「水と森の番人が創る癒しの里」の姿は、ユネスコエコパークの理

念である「自然と人間社会の共生」と一致しています。今回の決定は、本町の豊かな自然と我々の暮らし、歴史・文化を大切に守りながら共存して持続的発展を目指す取り組みが世界に認められたと捉えています。

この登録をスタートとして、自然を活かしたエコツーリズムの拡充や環境教育の推進、環境に配慮した農業などをより一層進め、町民の皆さまとともに、世界が認めたエコパークから、世界に誇るエコパークへとさらなるステップアップを進めてまいります。